



狩り下り（関市小瀬）

## 第 5 章

# 基本方針

第1節	基本方針	58頁
第2節	将来の展望	60頁



## 第1節 基本方針

第4章で整理した文化財の現状と課題を踏まえ、文化財の保存・活用・調査研究の基本方針を以下のように示す。

### 保存

受け継がれてきた鵜飼漁を次世代へ継承する。

- 共通の課題を解決するため、保存会で組織的に取り組む。
- 道具の変容については、必要性をその都度見極め、できる限り従来形態を維持するよう努める。
- 鵜飼漁に必要な人材の確保、鵜及び道具の供給、施設の維持管理について、安定を図る。
- 鵜飼漁の技術や習俗を次世代に伝えていくための記録作成をおこなう。
- 河川環境の保全に取り組む市民、関係団体との連携を強化する。
- 安全に鵜飼漁を実施するための防災対策を徹底する。
- 異常気象や新型コロナウイルス感染症等、環境や時代の変化に合わせた鵜飼漁を行う。

### 活用

鵜飼漁の価値や魅力を発信し、観光振興・地域活性化に繋げる。

- 鵜飼漁だけでなく、鵜の飼育や道具の製作等の様子も公開し、様々な角度から鵜飼漁に接することのできる機会を創出する。
- 観て、触れて、学んで、体験できる、参加型の普及啓発を通じて、人々の興味関心をひきつける。
- 鵜飼漁に関する情報を、紙媒体やSNS等を用いて分かりやすく発信する。
- 外国語で案内ができるガイド育成や情報の多言語化を行い、インバウンドに対応する。
- オンライン等を活用し、国内外に広く情報を発信する。
- 市民や民間の活力を積極的に活用できる仕組みづくりを行う。
- 鵜飼漁をふるさと教育の題材として積極的に活用し、子どもたちの地元を愛する心を育む。
- 活用の取組によって鵜飼漁の運営資金を確保できるような仕組みづくりを行う。



## 調査 研究

### 鵜飼漁の価値や魅力を探求し続ける。

- 様々な分野を対象に、総合的な調査研究を実施する。
- 他地域の鵜飼漁や、鵜飼漁以外の伝統漁法等と比較検討することで、長良川の鵜飼漁の地域固有性を明らかにする。
- 調査研究の成果を基に、保存活用の措置をさらに充実させる。
- 調査研究で明らかになった鵜飼漁に関わる新たな価値については、文化財指定等によりその保護を図る。
- 調査研究の成果を整理し、積極的に公開することで、市民や学識経験者等との価値や魅力の共有を図る。



鵜飼漁の基礎を学ぶ中鵜使い（岐阜市長良）



鵜籠を製作する竹細工師



親子船頭体験（関市小瀬）



全国鵜飼習俗基礎調査（三次鵜飼の現地調査）

## 第2節 将来の展望

第1節では文化財の保存活用を図っていくための基本方針を示した。この方針に基づき、保存活用を取組を実行していくことで、達成できる将来の展望をここに示す。なお、鵜匠と地域では鵜飼漁への関わり方が違うため、「鵜匠」と「地域」の2つの将来の展望を示す。なお、ここで言う「地域」とは、市民・行政等、鵜飼漁に関わる人々を含むとともに、鵜飼漁がおこなわれている地域社会（コミュニティ）としての意味も含む。

第3章、第4章で示したとおり、文化財には様々な立場の人々が関わっているが、鵜飼漁をおこなうのは鵜匠であり、文化財は各鵜匠家で代々継承されてきたものである。鵜匠にとって、生業としている鵜飼漁を未来へと繋いでいくことが最も重要なことである。

一方で、地域にとって鵜飼漁は大切な“宝”である。平成17年度から両市は連携して「世界に誇る鵜飼漁」を目指し、調査研究や普及啓発、情報発信等の取組を実施してきた。その理念を変えることなく、引き続き鵜飼漁に関わる事業を継続していくことが重要である。

### 未来に繋ぐ鵜飼漁

- ・ 鵜匠が鵜飼漁の技術を磨き続けている。
- ・ 各鵜匠家が生業として鵜飼漁を継承している。
- ・ 環境や時代の変化に合わせた鵜飼漁を行っている。
- ・ 鵜匠としての気概や責任感、鵜飼漁の技術が次世代に継承されている。

### 世界に誇る鵜飼漁

- ・ 市民が鵜飼漁に対して誇りと愛着を持っている。
- ・ 市民が積極的に鵜飼漁の支援に参加している。
- ・ 鵜飼漁を見に来た国内外の多くの観光客で地域が賑わっている。
- ・ 鵜飼漁を軸とした魅力あふれるまちづくりが行われている。



鵜匠 地域